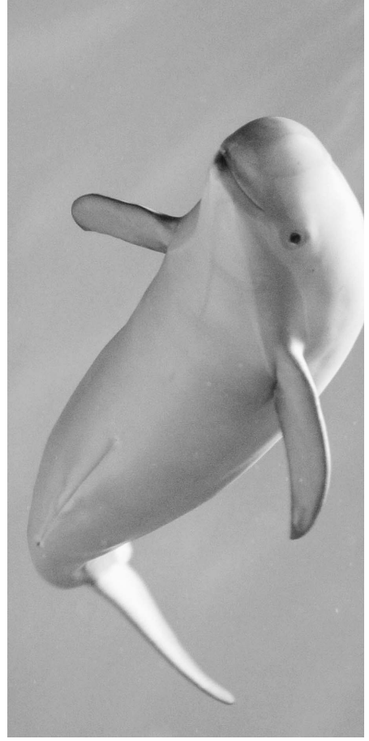
３月に仲間入りした、オスのトド「ヨネタロー」。11歳、体長２m60㎝、体重540㎏。旧水族館からいるメスの「コマチ」とは２歳年下だが、すでに貫禄充分。



メス３頭だったスナメリプールにやってきた、オスのスナメリ「ゴウ」。他のスナメリとの相性もよく、早くも赤ちゃん誕生の期待が寄せられている。

昨年10月に誕生したコツメカワウソの「アラタ」。名前は公募で決定した。父の「イロハ」と母の「ツバメ」とともに、元気に動き回っている。

ありがとう！
まるごと・１周年

特集 教えて！ 飼育員さん

Please tell me, keeper！

昨年８月１日のグランドオープンから、１年が経過した宮島水族館。
オープンからの来館者は、80万人を越えた。
スナメリの「ゴウ」、トドの「ヨネタロー」を新しい仲間に迎え、
昨年10月には、コツメカワウソの「アラタ」が誕生。
約350種の生き物が暮らす「みやじマリン」。
もちろん、「オススメはゼンブ」ですが、
その中でも、選りすぐりのオススメを３人の飼育員さんに聞きました。

問合せ　宮島水族館　経営課☎㊹2010　―特集　９ページまで―

みやじマリン海獣担当
濵村（はまむら）　大助（だいすけ）さん（49歳）

教えて！濵村さん。

サメにも触れますよ。この興奮を味わってみませんか。

一番のオススメと言えば、ここ、タッチングプールです。

普通の水族館は展示された海の生き物たちを「見て」まわることが主ですが、みやじマリンでは、実際にヒトデやナマコなどを手で触ることができます。また、ジャブジャブタイムの時間帯では、はだしになってタッチングプールの中に入ることができます。

ヒトデやナマコは普段目にすることもありますが、ウニやサメに触れる機会はそうはありません。最初は恐る恐る触っていた子どもも、慣れてくると自分からウニを手に載せたり、ヤドカリを覗いて見たりしています。

このプールには、危険な動物はおらず、サメなどにも安心して触ることができるので、とても人気が高く、休日などは入れ替え制にして対応しています。

また、子どもが触っているのを見て、親も夢中になって一緒に楽しむ場面も多く見られますね。

気を付けて欲しいことは、「生き物には、やさしく触ること」。飼育員の説明を守って、楽しんでください。

濵村さんの
オススメスポットは、
ココ！

磯の生物と触れ合うことができるタッチングプール。ヒトデやナマコ、ウニやサメなどを触って学べる。14時45分からのジャブジャブタイムでは、はだしで水に入ることができる。普段触ることのできない生き物に触れた瞬間は、大興奮。

ドチザメ
沿岸性のおとなしいサメで、海藻の茂みを好んで棲む。成魚では、1.5mくらいまで成長するが、タッチングプールにいるのは、約70㎝。瀬戸内海では、イサバとも呼ばれる。